名電高新聞

編集兼発行
名電高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

校訓
誠実
勤勉

朝鮮民主主義人民共和国を旅して

学校長　後藤　淳

第三回アジア卓球選手権大会のため、日本卓球選手代表団団長として、四月下旬から五月中旬の三週間、朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）平壌（ピョンヤン）市を中心に、はじめて北朝鮮各地を旅行する機会を得た。

近くて遠い国の言葉通り羽田→北京→平壌と中国を経、北京で朝鮮への入国ビザを取得するという手続きを経なければ入国できない。

平壌飛行場は、市街から車で三十分の郊外にあり、あまり大きくはないが整然として清潔な感じを受ける周囲は果樹園と小麦畑と朝鮮独特の屋根の先がピンとはね上がった平屋が点在するおだやかな風景の中にある。

市街にはいると、実に整然として、両側に四階・六階の同じ規格のビルがどこまでもつづく。これは勤労者住宅で、例外なしに一階はショッピングセンターとなって専門店がならんでいる。市内の主要道路は割合にひろく、両側の揚柳の街路樹が緑のトンネルを作るように繁茂しなんとも言い表しがたい風情がある。日本のように初秋に刈りこむことがなく、自然のままのびるにまかせているようだ。

ヨーロッパから平壌を訪れたある記者は「森の中の都」と表現したし、日本のある女流作家は「町の中に公園があるのでなく、公園の中に町がある」と言っている。

実にそのとおりで、私の泊ったポドンガンホテルは大同江の支流沿いの公園の中にあり、体育館やアパートをはるかにながめる閑静そのものの中に建てられていた。時間にして十分以上歩かなければ人家へはゆけない自然の中に、自然を生かし人間生活をはぐくむ社会主義国家の一こまであると感じた。

朝鮮は金日成首席の指導のもと、思想・技術・文化の三大革命の旗じるしのもとに建設する新国家で、朝鮮民主々義人民共和国創建二十八周年を迎えたという。

朝鮮人民は自主独立国家を建設し、自守的で創造的な生活をおくって日々努力をつづけているようである。

大会の期間中平壌は実にお祭りさわぎで、人民はよそゆきの服装で我々を含め大会に参加した三十余か国の選手団を笑顔で出来るだけ感じよく迎えようと努力をしているようでもあった。

民族衣装チョゴリンの原色の美しいのにもまさる少女・高校生・一般婦人の歓迎するはなやかさは、日本では想像もつかない。

朝鮮滞在中、南下し板門店軍事会談所の三十八度線を見学し其の実情を見聞し又世界の名勝「金剛山」を二泊三日で訪ね景観に接したことは忘れ得ぬ思い出となることと思う。

基礎学力向上のために

国語

振り返り、立ち止まって考える国語学習を
ぼく自信（自身）
私くし（私）
面回（面会）
敬祭（警察）
習貫（習慣）

生徒諸君の、国語の学力にふれるのは怖いことです。授業の中でも、「国語の勉強」をしているという自覚症状がなくなり、おそらく一番退屈で、つまらない授業になっているのではないでしょうか。

読書は好きだ。歌や詩を創るのは楽しい。いい小説を読んでいると、すべてを忘れることができる。だが国語の授業は大嫌いだという人が意外に多いとされています。

私の高校時代がそうでした。そして、今もその気持ちは変わっていません。一人で教科書を読むのが楽しかった。しかし、授業の味気さは消えなかった。確か小学校の三、四年生頃までの国語の授業は印象的だった。三年の時なに気なく作って出した俳句が、きれいな色紙と絵がついて校内に掲示された。胸がわくわくした。もっとよい俳句を作ろうとした。その頃日記をはじめ、今でも続いている。

そのことが、私の幼い国語入門でした。俳句に飽きて詩に変わった。必要に迫られ、読書も自分から求めはじめた。だから、その頃覚えた物語や漢字やことばはしっかり身についている。その後は、「国語の時間」が、私の意識から消えてしまったのです。

そして、ことばが増え、文法を知り、ローマ字を覚え、英語にしがみつき、受験科目のみを追い、読書を忘れてしまったのです。

生徒諸君の、読書力、作文力、漢字力、ことばづかい等の平均値を見ると、「小学校四・五年」の力でストップしている現実を見ることができます。そこから成長していないのが問題なのです。

それから、上っすべりの中学時代――そして、難かしく、興味のない高校の教科書で、いっそうその芽が断たれているように思われます。

その頃に、もう一度戻ってみよう。思い切って。今なら、まだ間に合うかも知れない。そこから再び、急いで上ろう。

国語の基礎的な学力の宝庫と興味は、その頃に無限にあります。そして、わからないということをはっきり言える、小さな勇気を出して努力しよう。

「そんな字が読めんか、書けないのか。」

「その言い方はなんだ。」

「もっとうまく読めんのか」

「手紙一つ、ろくに書けない。」

世間に出るとよく言われます。

国語学習の目的は、そんな些細なことではないのですが、基礎的な学力は、途中からでは向上しません。

七、八年前に戻って、そのことから考えはじめ、積み重ね、地道に学ぶことしかありません。そのために目を覚しましょう。口と手、口と耳を相当動かし頭を思い切って使い、スポーツをやるような気持ちで学習しましょう。

（教諭　小杉英夫）

数学

標記の題を示されて書けとのことで一寸とまどいました。高校教育に於て数学の基礎学力とは何かを定義しなければならないからです。最近よく小学校教育に於てさえも、基礎学力の向上が叫ばれていますが、これは一寸再考を要する様に思います。

と申しますことは、小学校教育の根底には反復練習することが第一に考えなければなりません。いたずらに高度の内容を教えられることは第二義的であるべきです。その反復練習の成果として計算の基礎と併せて思考の基礎が確定します。この上に中学校数学の思考テクニックと計算を反復練習して中学校の基礎学力となる筈です。

さて高校に於ける数学の基礎向上とは何かを考えて見たいと思います。それには(1)確実に自分で問題の解答をする気迫。(2)根気よく計算する心構え。(3)教科書を反復練習する情熱。これ等のことがさっぱりいやだいやだと思っている人には救いの道はありません。さて高校に於けるカリキュラムを見ますと次の様です。

一年生。式の計算。数と集合。方程式と不等式。命題と証明。写像。二次関数指数関数と対数関数。ベクトルと座標。平面図形と方程式。三角関数。個数の処理確率。

二年生。数列。数学的帰納法。微分法。積分法。行列と一次変換。ベクトル。初等幾何。

三年生。数列の極限。関数。微分法。関数値の変化不定積分。定積分。確率分布。統計的推測。となっています。これを見ても中学校までの基礎に立って一年で種々のテクニックを学び二年三年ではほんの少々のテクニックを修得することになります。

従って、高等学校では、中学校で学んだ因数分解、方程式、関数及びこれ等の計算が確実になっておればさしたる困難はありません。このことを肝に銘じ、あせらず、おくれず、根気よく学習することが基礎学力の向上、そして数学が好きになる基であると考えます。

幾何学に王道なしと申します。基礎学力向上に妙薬はありません。毎日こつこつ勉強することです。ここで少々敷衍しますと、基礎を考えるには、基準が必要です。基準を考えることは学校並びに教師の責任であります。（教諭　寺沢　真）

英語

英語の授業が意外に難かしく、努力しても能率が上がらず、意欲もわかないのはなぜか。

これは中学三年間に学んだ英語が、自分の気付かない多くの弱点を抱えているからである。こんな人は、中学で怠慢のために努めて学びとろうとする気力が湧かないまま、現在に至ったと思われる。語学の基礎学力は、何度も繰返し積み上げて行けば、進度の差はあっても、誰でも習得できるものである。特別の秘けつがあるわけでない。問題は、自分が、他人に強制されずにすすんで学ぼうとする決意があるかないかにある。

英語の学習は、まず、動詞に的をしぼって挑戦することをすすめたい。動詞は英文の構成上、文の語順を左右する。その中心をなし、これが征服できれば、英語が急に身近に感ずるようになる。

次にそのポイントを挙げると、①動詞の活用形（現在、過去、過去分詞、現在分詞）㊟ write, wrote, written, writing、不規則動詞で中学三年間に七一語②動詞の活用と助動詞を組み合わせて、進行形、受動態、完了形をつくる。㊟ be writing, be written, have written

そして、それをそれぞれ現在形、過去形、未来形の文に発展させる。以上①②は、時間をかけても、徹底的に暗記し、必要なときは、言えて、書けるまでに反復練習すること。ただ見て読めるだけでは駄目である。③やや程度は上がるが、動詞的性質をもつ不定詞（to＋原形）、動名詞（～ing）現在分詞（～ing）、過去分詞が文中で、名詞、形容詞、副詞などの働きをすることが、判断できるまで、理解すること。以上①②③を、完全にマスターすれば後は出来るだけ問題集等で多くの問題に当って、傾向に慣れ、学力の盲点をなくすことである。

動詞が征服できれば、思ったより早く次の学習事項は身につきはじめる。そして、常に考えることが楽しくなり、習慣となる。誤りも恐れなくなる。学校の授業と平行して、独自の計画をたて、こつこつと家庭で努めれば遅くとも一年もすれば、その効果は、徐々に現われる。思いきって自分の学力まで程度を、おとして、集中することが肝要である。（教諭　友松公徳）

北京における演奏会

热烈欢迎日本名古屋电气工业高等学校吹奏乐团访华演出

（上）参観する訪中団の一行

（下）ウルガイ民族の唄と踊り

中国を訪れて

校長補佐　長尾　正男

本年三月五日から、同月十六日までの十二日間、名電高の吹奏楽団の一員として、中国を訪問しました。

その中の、学校関係のものを、抜粋してみます。

三月九日午前、北京の中央民族学院の参観にまいりました。

中央民族学院は大変広い敷地をもっていて、校内より可成り車で入り込んだところに、色とりどりの、各種の民族服をつけた、学生生徒の出迎えをうけました大変広い応接室が用意されて、私達六十名に出迎えの学生・生徒が、一緒に席につきました。

李校長のお話で、中国には漢民族の他に、五十四の民族がある（中国では少数民族という）。少数民族の幹部を養成する学校で、辺境地域から推薦をうけて、北京にはるばる来て、勉学に実務に懸命である。日本の小学生の高学年位から、大学生の範囲が、学問を修めて、各地方にもどり、各地方の指導者になるのです。

学校の案内をうけている途中、丁度、スピーカーからラジオ体操の音楽が流れ全員が屋外に出て、号令に合わせて、各自が体操をしているところに出合いました。特に指導者はいませんが、悪ふざけ等を見ることはありません。

民族資料館では資料がよく整備されていて、学生が手際よく説明をしてくれました。小講堂での交歓会で民族音楽が数曲演奏され、唄と踊りを披露して頂きました。（写真はウルガイの少年の器楽演奏です。蛇の皮の太鼓、細長いマンドリンに以た楽器、横笛での合奏）

三月十三日午後、上海の継光中学校の参観でした。校内に多数の出迎えで、鉦太鼓を打ちならし、喇叭を吹いての大歓迎でありました。赤色の横断幕が校舎にかかげてありました。控室に入って、副校長より学校の説明をうける、生徒数は約三千名、運動場での、集団体操を見学三千名がラジオに合わせ一斉に、乱れなく、本校の運動会の集団体操より立派でありました。

体操が終り、各学級毎に教室に入る様子も整然として、分厚な綿入れ服を着ているので何かころころとした感じではあったが堂々と行進していました。

授業の参観では、数学の授業と英語の授業の仲間入りをして、暫く授業を聞きました。数学は中国語であったことは勿論ですが、一次関数の応用問題で、生徒は理解よくうけとめていたと考えます。

実習の教室も見学しました、蛍光灯の組立て、手際よく製品がどんどん完成していく又テレビジョンの配線模型飛行機・船の製作は簡単な工具を使っての手作業で器用に根気よくつくられていた、その他絵画、書道等も大変上手でした。

運動場ではバスケットボール・綱引き。屋内では卓球が始まっていた。床は土間で、照明も裸電球で暗かったが、大変上手で、吹奏楽部の腕におぼえのある者が相手をしたが到底勝てる相手ではなかった。

校舎には落下傘の降下練習機が装置され、高学年が降下練習をみせてくれました。

その後の、交歓会で、踊り、唄、器楽演奏を見せてもらいました。

中国の子供の感想として自発的に今何をすべきかをよくわきまえたものの集りとして、よくまとまった集団行動とうけとめられ好感がもてました。

先生紹介

本年度、ご新任いただいた先生方に、次のようにアンケートをお願いした。

一、最終出身校
二、担任教科名
三、趣味
四、本校生徒の所感
五、本校生徒への希望

教諭　石川　聡

一、愛知工業大学　工学部　電気工学科
二、電気・電子実習
三、スポーツ
四、最近の生徒は身体が大きくなったが、体力が伴なわず、心の面においても身体に反して未熟さがみられる。
五、人に備なわっていけなければならないものは三つあるという。

人間の持つ「気」と、人間の中にある「心」、さらに人間を形づくっている「体」である。

それらが一体となり、若者らしく生き生きとした高校生活を送ってほしい。

教諭　大鐘　一良

一、名城大学農学部　農芸化学科
二、化学
三、動物
四、母親の体内より出て15～18年。これから長い人生の中で自分の歩む道について考えていないものが多い事に気が付く。
五、人生とは、人が生きていく事である。人が生きてきた間に「何をしたか」によって、その人の人格がきまり、そして人生の価値がきまる。人が生きている間に「何をするか」が長い人生の中で一番大事な事と思う。

15～18才の間は、これから長い人生の中で、「何をするか」を考える時期であるそして自分の道を見つけ目標を達成させなければならない。

その為にも、人を知り、知識をつけ、そして多くの経験をつんでほしい。

教諭　川合　康夫

一、国学院大学　文学部
二、国語
三、スポーツ、釣り
四、五

諸君にとって大切なことは、何事に対しても、結果をよくしようという意欲をもっともっと燃やすことである。すべて結果というものがそこに至る過程で決まることを思うと、諸君にとって一日一日はまことに貴重である。

結果がよくない時は、自分の努力の足りなさを反省し一生懸命やった結果だからしかたがないなどといいかげんな得心をしてはならない。

野球の選手で言えば、選手としての資質で大切なのは、自分のプレーに対して言い訳をしないことである。何事もやりぬかなければよい選手とは言えず、勉強であれ何であれ一応のところで満足せず、まずやりぬこうという気持ちをしっかり持ってがんばってほしいものである。

教諭　粥川　桂司

一、岡山理科大学　応用物理学科
二、数学
三、天文
四、五

例えば、マラソンをしている時に、自分の心の中から二つの声が聞こえて来ることがある。一つは、「こんなに苦しいのに、なぜ走るのか。やめてしまえ」という声と、もう一つは、「くそ、こんなことで負けてたまるか」という声である。

マラソンに限らず、日常生活のなかでは常にこの二つの声が聞こえてくる。人間というのは弱いもので前者の声に負けてしまいがちなのである。これは小生にも言えることである。

そこで生徒諸君に提案なのだが、自分というものを見つめて、あえてその自分に挑戦しようではないか。

教諭　杉浦　滋

一、立正大学　文学部
二、地理
三、旅
四、五、

もし君が、君自身でないとすれば、一体君とは何者なのか――自分が自分自身であるために、はてしなく考え、限りなく動きたい。限界の認知はそのあとに存在するはずだが、あきらめが先行しがちだ。

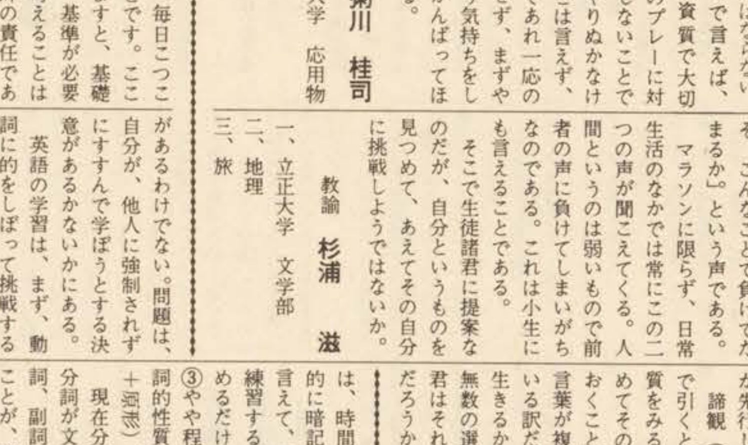
諦観（テイカン）を辞書で引くと、「あきらかに本質をみること」と「あきらめてそのままの状態にしておくこと」とある。一つの言葉が複数の意味を持っている訳だ。ましてや、どう生きるかといった場合は、無数の選択肢があるはずで君はそれをどう生き抜くのだろうか？

校名改称により題号も変更

大正元年に創設されて、爾来六十有余年。更に本校の発展を期して、この四月一日から、校名が、**名古屋電気高等学校**と改称されました。

従って、新聞の名称の変更により、また題号も、新しく変えました。

従来のものを生かしたもので、美術担当の井上先生の手をわずらわしました。



トレーニング室での練習

体育施設の整備

トレーニング室完成

50年度卒業生の卒業記念として、愛和会館一階に、トレーニング場が完成した。

51年5月21日（金）一時から、日本ウェイトリフティング協会普及部長であり、中日ヘルスクラブ主幹、サーキット教室の指導者中村清先生を迎えて、トレーニング場開きが行なわれた。

明るい室内にはトレーニング器具として、4欄の肋木2基を始め、ディッピングバー5台、腹筋台10台、平均台5台、マット10枚、30kgから15kgまで各5kgちがいのセットバーベル40本、6kg、4kg、2kg、の鉄亜鈴、各20個などが備えてある。

現在すでに、体育の授業に、放課後クラブ員の筋力強化に利用されているが、生徒の体力づくり、バランスのとれた全身の強化に役立つと思う。

トレーニング場のとなりには、シャワー室、ロッカー室も完備し、思いきり汗を流した後は、シャワーでさっぱりすることもできる。

難を言えば、室内が狭く、また、コンビネーショントレーナーや、立体走路、ローイングマシンなどの器具があると、もっと利用価値があると思うが、これはちょっと欲かも知れない。

随想2題

頭の働き

教諭　古瀬金治郎

中谷宇吉郎博士の雪の話の中に、次のような記事があった。

「低温室内で雪の結晶を作り、顕微鏡でその形を調べると、実に鮮やかに美しい形が見える。ところが低温室を出て研究室に戻り、先に見た結晶の形を描こうとすると、なかなか浮んでこない」ということである。

これでみると、気温の低い方がわれわれの頭脳の働きが良いようである。

また「南方ぼけ」ということが言われる。熱帯地方の都市に転任して一、二年もたつと、思考力が鈍るということである。これによると、気温が高くなると、われわれの頭脳の働きは悪くなるようである。

以上を読むと、気温が低いほど良いように思われるが、はたしてそうだろうか。われわれの身体のことが忘れられている。われわれが生活を続けるには、ある気温の限度があるはずである。その限度を無視してはならない。

昔から「頭寒足熱」と言って、頭の方は冷やして、足の方はあたためるのが、健康上最もよいことだと教えている。

さて、頭脳の働きは、物を覚えたり、考えたり、判断したり、また運動神経を刺激したりすることである。これらの働きをよくするにはどうしたらよいだろうか。

たとえば、本を読みながら他の事を考えていたのでは、その内容はよくわからないし、覚えられない。本を読むことに、精神を集中してこそ、その内容が理解でき、よく覚えられる。

物を考えるときも、雑念がはいっていては、よい考えは浮かばない。その事だけに精神を集中してこそ、頭脳はよく働く。

野球選手が「今日は精神集中がよくできたので、会心の打撃ができた」と語るのも、精神集中がいかに大切であるかを物語っているのである。運動のコーチが高度な技術に「雑念を払え」と教えているのも、精神集中が頭脳の働きに大切なためである。

幼児が無心に遊んでいるとき、小学生が夢中で物を作っているとき、中学生が脇目もふらずに絵を描いているとき、そこに精神集中が行なわれている。このような精神集中の積み重ねがやがて頭脳の働きをよくするのである。小さいときからの一日一日の積み重ねが習慣となって、知らず知らずのうちに、精神集中ができるようになるのである。この習慣化こそが大切である。

ニュートンが研究の途中で、ゆで卵を作ろうとして懐中時計をゆでていたという逸話があるが、これはニュートンがいかに精神集中が良くでき、研究一途に打ちこんでいたかを物語るものである。

さて現代の学生はどうか勉強部屋の壁に「精神一到何事か成らざらん」と書いた張紙をして頑張っている学生が昔と同様に多い。精神を集中して努力すれば何事もできないことはないという格言を励ましとして勉強を続けているのである。

訪中吹奏楽団の日程・行事

訪中吹奏楽団の編成

団長、後藤淳先生外役員九名、団員三年生、下条俊幸君外十五名、二年生青山一三君外十六名、一年生糸井純二君外十五名、附中二年生木俣好孝君、計団員五十名その内女子十三名。

訪中が決まってから団員は日中文化交流協会、その他の先生から中国の歴史、文化の説明を聞いたり、映画により勉強会をする。

三月五日　バスで学校を出発大阪空港発十七時、中国民航機で北京へ二一時五〇分到着。北京では一流の北京飯店（ホテル）に宿泊。

三月六日

演奏会場にて練習、夕刻北京飯店にて歓迎レセプションに出席、その席で中国側より民族楽器による演奏我々も日本民謡等を披露。

三月七日

午前中、対外友好協会にて映画「第二の春」を鑑賞する。午後練習、特に夜は舞台で演奏会のプログラムにより練習。本番に備える。

三月八日

午前中、中央楽団との交歓会。中央楽団のすばらしい演奏を鑑賞。特に我々の演奏する中国の曲については、色々指導を受ける。夜、第一回演奏会。

演奏曲目、日中友好行進曲、白毛女、紅色娘子軍、黄河、日本童謡、日本民謡その他を披露し好評博す。

三月九日

中央民族学院訪問

多民族の国であり、少数民族にも独自の民族教育をしている。ここでも民族楽器による演奏を聞く。午後公開練習。夜第二回演奏会。

三月十日

午前中、「故宮」見学。午後は公開練習の後第三回演奏会。

三月十一日

万里の長城、十三陵見学。その後文芸の夕べで北京最後の夜を楽しむ。

三月十二日

十時半北京を後にして正午上海に到着。錦江飯店にて宿泊。

午後練習。夕刻より上海友好協会主催の歓迎レセプションに出席。ここでも中国側、そして日本側の演奏もあり交歓する。

三月十三日

午前中公開練習、午後継光中学を訪問。教室だけの勉強ではなく生産と結びつけた学習ぶりを見学。そして演奏や踊りによる歓迎を受けた。夜、上海での第一回演奏会。プログラムは北京と同じでここでも好評を得た。

三月十四日

午前中工業展覧会見学。展示の楽器を使ってステージドリルも臨時に演奏する午後少年少女の曲技訓練班訪問、夕食後第二回演奏会

三月十五日

午前中「黄渡人民公社」訪問。国営の工場、農村を見学。この農園でもドリルを披露して喜ばれた。午後、「成年宮」との交歓会。青年団の文芸、体育活動等をしている所である。楽器演奏その他で交歓する。夜は革命現代京劇「智取威虎山」の公演を同時通訳で観劇する。

三月十六日

十一時頃上海をたち大阪空港に十四時すぎ無事到着

シキシマパン
クラブ
クラスの会合に！！
生クリームケーキ、
菓子袋詰、色々お値
打に予約承ります
☎ 711－4434
合資会社　紅扇

ヨギソのパン
ヨギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL（751）2858
2859

各種板硝子・鏡
井伊ガラス
井伊ガラス

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
秋です毎日牛乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳
玉木販売所
千種区上野町五の六五
TEL（711）2235

訪中座談会

吹奏楽部員

◆中国訪問について

中国側の招待により、青年の音楽交流による日中友好と親善をはかる目的で、十二日間の訪中。堂々とその使命を果たされ、帰国されてから半年。

今、ここに、思いを新たにして、印象を語ってくれました。

ピアノ協奏曲黄河・吹奏楽白毛女等の曲を選び、またさくら・黒田節・北海盆唄等の純粋な日本メロデーを奏し、友情溢るる拍手が贈られ拍手を返してきたクラブ員の諸君。

その諸君を中心に、先生方にもご出席を願い、座談会を開きました。

◆座談会出席者

G3　市川典明・青山晴美
　　柴田みゆき
E3　堀　功夫・折山正宏
G2　佐藤正晃・早川達夫
　　尾関篤子・細川みどり
E2　伊藤　要
長尾・松井・岩田の三先生
司会　新聞部員　六名

◆座談会（司会新聞部）

岩田先生　この三月に音楽使節として中国を訪問、見事その重責を果たされた皆さんに、その土産話というか、半年後の今日、なお心に強く印象づけられていることを聞かせてもらいたい。

一応、座談の要項に従って尋ねますので、気軽に、話していただきます。

○中国訪問にはどんな心構えで、どんなことに留意したか。

市川　友好を第一のモットーとし、特に中国の青年と交流できるのが楽しみで、その外には格別の心構えをしたという程のことはありませんでした。

司会　友好第一に心がければよいので、むずかしい心構え等と四角張って出かけたわけではなかったのですね。

青山　日本の高校生として恥ずかしくない行動をしてほしいと、先生方からご指導がありましたし、また私達自身自覚もし、そして伸び伸び行動したいと話し合っていました。

松井先生　その通りなので日本では名古屋の一高校―名電の生徒なのですが、向こうでは、日本代表の高校生なのですから、私共はりっぱであってくれと念願していました。

長尾先生　日頃吹奏楽部員の諸君は、熱心に努力を積んでいるので、その身についたものが、自然にうまく発揮できたと喜んで帰ったのです。

司会　今先生から太鼓判を押してもらったわけで、大変結構でした。

○中国の歓迎ぶりはどうでしたか。

市川　空港に着いてみると中国の歓迎の人達でいっぱいで、それは盛大なものでした。

折山　北京に着いたのは午後十時頃でしたが、中国の代表の人達が六・七十人は居たようで、寒いのに一時間も前から厚いオーバーに身をくるんで待っていてくれたとの事でした。全く感激しました。

司会　その感激はその気持ちは帰る日まで続きましたか。

早川　十二日間の旅の間その接待ぶりに変わりはなく終始楽しい思いでした。

長尾先生　私共が泊めていただいたホテルは、中国第一番で、日本大使館の方もまさかと驚かれたとの事でした。中国政府の真心こもったもてなしは、私共が中国を離れるまで変わりませんでした。

岩田先生　第一番のホテルに泊まれたという事だけでも、中国側の誠意がみられるわけですね。昔から中国は礼儀を重んじる国で、その伝統が今の中国にも受け継がれているということが感じとれますね。

○演奏について、どんな反響があったか。

尾関　演奏が終わると拍手がすごく、その拍手に感激しました。

司会　われんばかりの拍手を受け感動し、さらに演奏にうち込むという繰り返しだったのですね。

折山　そうなんです。しわぶき一つ無かったもんね。小学校の三年生くらいの子もいたが、ゴソゴソ動くなんて無かった。

司会　そうなると、松井先生の立場から緊張感はひとしおでしたでしょうね。

松井先生　今度の演奏については、中国の曲・日本の曲を半々に組み合わせて演奏しました。

文革以後の中国の文芸・芸術に対する考えは、毛首席の文革路線に大変忠実なのですね。古い中国のよき伝統を受け継ぎ、ヨーロッパの長所を採り入れ、自分達の音楽を尊重することに終始している。

ですから、日本の曲を選ぶにしても、日中友好を表わすようなものにし、中国の曲は、黄河・白毛女といった向こうの代表曲を練習して演奏したので、それが大変喜ばれ、結果として拍手と感動を呼んだということだったと思います。

青山　中国の人達の演奏を聞かせてもらったが、それに比べると私達は未熟だと思った。あの素晴しさには、とても及ばないのに、私達への拍手はすごかった。

伊藤　中国の演奏者は、日本で言えば家元級だったようです。そういう人達が出てやってくれたのです。

司会　車も一流、ホテルも一流、接待で演奏した人達も一流ってわけですね。

松井先生　ですから私達は単なる高校生の使節ということではなく、国の代表使節を迎えるという態勢で、終始歓迎されたわけで、いかに真心こめたものであったかと心うたれています。

長尾先生　日本と今の中国との違いと言いますか、日本へ外国の一流の楽団が来られても、政府代表の高官が出迎えて挨拶するということは考えられませんね。とにかく毎日中国の大臣級の方が何かと顔を見せ、日中友好のためという誠意を見せてくれたと思われます。

市川　上海で京劇に出演した人の中に、日本の国会議員に相当する方があったそうで、しかもその人は、上海では私達に付きっきりでした。

伊藤　舞台で演奏するときも、その人が始終世話をしてくれました。

岩田先生　すると生徒達は純真ですから、当たり前のことぐらいにしか思っていませんね。お客さんだから。先生の立場から、これは大変なことだったんだという事ですね。

司会　礼を尽くして歓迎してくれたわけなのですね。

○訪中の目的―友好親善の実があがったか。

司会　皆さんの感想や話しぶりから察すると、中国では極めて友好親善に徹していたということですね。

堀　私達は、せっかく招かれたからには、訪中の目的を果たすため、吹奏楽の演奏に精をこめ純真に行動することだけを考えていた。用意された食事も全部たいらげてしまう、笑顔で伸び伸びとやる―それだけでした。

青山　北京に行ったら、パンダ・ペキンダック・万里の長城だと言われたが、その三つとも体験しました。

ペキンダックというのはお客えの最高のものだそうです。それを私達高校生に接待してくれたわけで……。

伊藤　国賓の次ぎくらいの待遇を受けたのです。

佐藤　僕達はそれを残してはいけないと必死になって食べたが、食べ終わるとまたザーッと入れてくれた。

室に戻ると、チョコレート・果物が置いてあるという風で、なかなかの心づかいだった。

松井先生　楽しい旅行で終わってしまったみたいだけれど、向こうは学習第一・友好第一ということですし我々のスケジュールも、演奏は大体夜、午前中は練習会、午後は見学交歓会と、きちんと定められていて、その間体調を崩してはいけないし、大変な行事だったわけなのです。

だが部員一人残らず日中友好親善によくやったと感心しています。

柴田　中国では、夜の催し事は七時に始め九時に終わるきまりでした。しかし、プログラムが盛りだくさんで、それが九時半にまで及ぶというわけ。終わりの歓送行進曲が始まっても、手拍子が続いて聴衆が動かない有様でした。

柴田　ひどく感動しましたああいう状景は一生忘れられないでしょう。

松井先生　みはからって適当に止めましょうなんてね。

上海にて

演奏なんですが、楽譜の解釈は慎重にし、向こうの関係者にも来てもらって、練習に念を入れました。だのに、知らんうちに練習見学の人々が多数集まり、それなら本番にしようなんてことでリハーサル抜きにして、三回の公演が五回になってしまう―そりゃ大変な受けかたでした。

司会　そこまでに至る準備と研究が行なわれ、そして皆さんの日常の練習がそのような実を結んだということで感心しました。

○一般に中国・中国人について、どんな印象をもったか。

佐藤　地図で見た中国と実際に行ってみた実感との差たいへんなものでした。飛行機上から見下していてもどれだけたったら次の町が見えるのかと。

早川　汽車で走ったらどうなのかと心配になる程……。

市川　向こうの中学校とか青年宮に行ってみて、青年たちは、これからの中国を背負って立つという意気込みが、ありありとわかりました。

青山　いっしょに授業を受けたんですが。英語の時間だったんです。すごくむずかしい単語、聞いていてもわからないものがどんどん出て来て…。こんなむずかしいのを今からやっていてね。それに、英語の時間は英語だけで……。

市川　学習内容の程度が高いということでしょうか。

実習の時間を見学しましたが、テレビとか蛍光灯を作製しているのです。

青山　学校が経営している工場があって、その下請けのような授業が行なわれている。とにかく生産をしているのです。

堀　中国には泥棒が居ないという話です。

司会　はえもいないそうですね。

折山　はえが出てくればたいてしまう。だが、現実にはいない。もっとも僕達の滞在は冬でしたが。

長尾先生　泥棒はいない。わたしたちが、貴重品を放置しておいても全く異状なかった。舞台公演に際しちょっとその辺においても心配は無かった。

○中国の若者達について特に感じたことは何か。

青山　人民公社の見学の時大学生に会った。五ヵ月ぐらい日本語の勉強をしたそうですが、かなり話せるのです。

日中友好のために日本語を話せる勉強をしたというその心構えに感心しました。

松井先生　曲技訓練生で感動したでしょう。そのことについて話してみたら。

早川　とにかく話すこと、その他の態度が実に規律正しい。恥ずかしい思いをした。

伊藤　何をするにも堂々としていて、小さな子どもでも毛首席の教えという基本的態度を崩さない。目的をもって、何についてもやり遂げるというふうでした。

細川　逆立ちをやっている三年生くらいの小さな子が十八分間も耐えている。それをしてから次の演技に移るという確かな心が見られるのです。

尾関　何のために誰のために、もう一つ何でしたか、その三つのことからスタートするのです。

長尾先生　日本の若者に見られる三無主義なんか微塵もありませんね。この若者達の意気込みはうらやましかったですね。

司会　娯楽面というか、若い人たちのレジャーに関して、気付いたことはありませんでしたか。

市川　日本で感じられるレジャー的なものについては気付きませんでした。

岩田先生　むかしの日本と今とでは、レジャーの現象に大きな差があるのは事実で。ロックとか何とか笑って過ごすという派手さはありませんでしたか。

長尾先生　音楽をたのしむということですが、中国では、何のためにということから始まるようで、その一つは、伝統芸能を守り抜こうという気持ちが絶体なのです。そして、個人が楽しむというより、みんなでそれを聞いて、それをやったことにより翌日の生産意欲に結びつく、プラスになるためのものという受けとり方のようです。

司会　例えば中国人が外国へ出てその影響を受け、中国から逃避したい等ということはないのですか。

松井先生　短期間に接したなかから結論的な答えはできませんが、推測すれば、彼等には彼等としての確固たる信念を持っているので我々が安易に考えてるような娯楽にひかれるということは無いのでしょう。

岩田先生　中国は歴史の古い偉大な伝統のある国ですし、常に中国・中国人という態度を崩さないできていると思うし、今また新しい意味での中国の青年期に当たるので、その発展に役立つという目的意識に燃えているのだから、しっかり完成するまでキョロキョロしてるひまはない。従って、外国へ出れば、外国のよさを勉強して帰るという気持ちでいっぱいなのではなかろうか。

伊藤　伝統芸能の中の琵琶など、クラブの中で猛烈にやっているが、そこに指導者がついていて少しのミスも許されないという練習。それがまた楽しみでもあるというところが見受けられるのです。

司会　日本の若者達は、利己的というか、自己中心にすべてを見るという態度が強くなっていると言われるが……。

堀　中国の若者達は、より仲間・社会・国家とかいう意識が先に立つから、同じ音楽のたのしみ方でも、違った形になって表われるのでしょう。

市川　たしかに日本とは違った次元の違う別世界みたいだと思われるものが見られました。

青山　目に触れる一つ一つの現象のどこが良いか悪いかの問題でなくて、そういう生活体系・生活環境があって、その中で、全力を尽くしているという実感が強かった。

○中国訪問での一番の収獲は何か。

柴田　すごく人口が多いのですが、その一人一人の意見があっても指導者―毛首席の考えにまとまって団結してやって行けるかと不思議に思われる。小さな子どもたちの歌の中にも、そういうことが歌われてるし。

司会　大目的があって、個人の好き嫌いは二の次ぎになってしまう―それが今の中国人の生活の日常であり、自然のことだと、各人に受けとられている。

柴田　それと同時に、毛首席の偉大さが感じられる。

長尾先生　訪問が終わって何が収獲であったか、自分がやらなければ駄目なんだというような思い―それを持って帰ったのなら大変結構なのですが。

早川　自分を中心に考えてみて、ただ漫然と生活しているのは恥ずかしいという何か芽生えたものがあるような気持ちがある。

司会　吹奏楽部の諸君は、日々たゆまない練習にうち込み、全日本のコンクールにも何度か優勝（金賞）している。そういう生活経験の積み重ねの中にある諸君だからこそ、中国の若者達の充実した姿を感じ取ってきたということだと思いますが。

市川　何度も話に出ていましたが、同じ世代の人達を見て、一つの目的にうち込んで最後まで努力するということ、その考え方に感心しました。

折山　自分勝手じゃなくて自分よりも他人という感じですね。

柴田　何のためにという目的意識がはっきりしてる。

松井先生　この中にこの六月、アメリカの建国祭に参加出席した生徒があるが、短期ではあっても、それぞれ外国を見た外国人に接したという点、そして日本を見つめる機会を得たということ自体が、大きな収獲であると思う。

佐藤　向こうの人は、何事にも精一杯やっている。それに、何か暖かいものが感じられた。

細川　自分自身反省することがいっぱいある。

尾関　日本には個人の自由があって、何でも自分の好きなことがやれる。中国では、個人の自由が二の次ぎで、国のために毛首席のもとで、目的のために直進しているという違いがわかりました。

司会　日本の若者として、反省すべきものがたくさんあるということに尽きるのでしょうが。

細川　民族学院へ見学に行った時でしたが、校内を歩いていると、ラジオ体操の音楽が流れ始めました。何の指示もないのに、自分自分が並んで体操を始めました。驚きましたね。うちの学校には見られない風景でした。

折山　国家の仕組みが違えば、自ら国民の考えや動きも違うのは当然でしょう。

ただ、僕達若者、特に学生は何のために勉強しているのかは、はっきりさせたいと思います。

佐藤　自分勝手な若者達と言われない努力はしたいものです。

長尾先生　しっかりした印象、その把握の仕方はりっぱだと思います。

しかし、日本という国はよい国であると、今更のように思いますね。

司会　ほほえましい話とかおみやげのこと等についても、お聞きしたかったのですが、長時間になりましたので、座談会はこれで終わりにいたします。

（文責編集部）

インターハイで活躍

各運動クラブ

ベスト8進出

卓球部

第四十五回、全国高等学校卓球選手権大会に出場

○男子団体
一回戦
本校四対〇北海高（北海道）
二回戦
本校四対〇日南高（宮崎）
三回戦
本校四対一日大藤沢（神奈川）
四回戦（準々決勝）
本校〇対四青森山田（青森）

1 宮田 西海知 1 18-21 21-9 15-21 2 大谷 佐藤
2 山崎 1 17-21 16-21 21-18 2 村岡
3 宮田 0 21-23 16-21 2 大谷
4 高橋 0 12-21 18-21 2 佐藤
5 西海知 ― 田中
6 浅井 ― 神
7 山崎 ― 村岡

○男子ダブルス
一回戦
浅井 高橋 1 20-22 12-21 21-19 2 海老根 古山（千葉 一宮商）

○男子シングルス
一回戦
宮田（不戦勝）
二回戦
宮田 2 21-17 21-15 0 佐藤（福島 船引高）
三回戦
宮田 2 21-18 21-16 0 山口（兵庫 洲本高）
四回戦
宮田 2 21-19 21-14 0 萩原（岡山 関西高）
五回戦
宮田 0 19-21 22-24 2 岡部（東京 実践商）
ランキング第十二位

○女子シングルス
一回戦
藤田 0 12-21 18-21 2 山口（東京 武蔵野）

（後記）

男子団体において三年生七名を揃えた本校は、外部からも有力校の一つと注目され、それなりに期待して大会に臨みましたが、成績は前記の通りで我々に教訓のみを残して閉幕しました。その結果反省すべき点として

一、指導者も日々研究・努力する
一、選手の集中力（特に練習中）の向上
一、基礎体力作り、

が挙げられますが、今後、伝統と栄光に輝く名電卓球部のため、いっそうの努力を積み重ねたいと思う

中大附高と激戦

バスケットボール部

“県総体二年連続優勝”

全国高校選手権と言うべきインターハイの出場権をかけ県下百四十校余りの学校が参加して行なわれました。我校は昨年度に続き二年連続二度目の優勝三年連続のインターハイの出場権を獲得しました。今年は八月一日より松本市で行なわれ昨年東京大会ベストエイトの実積からシードされ期待されましたが三回戦（ベスト十六位）で敗退全国の壁の厚さをしみじみと味わってその経験を生かして今後全国優勝を目標に邁進するつもりです。

一、県大会決勝リーグ戦

名電高 89 45-43 44-24 67 岡崎城西
名電高 96 47-33 49-21 54 半田高
名電高 74 29-33 45-15 48 豊橋東

一、インターハイ結果

一回戦
名電高 96 43-36 53-27 63 仙台第二

身長で優る名電高はオフェンスのリバウンドボールをとり着々と加点、一方仙台第二はボールもとれず外からのシュートも相手の身長を意識するためかなかなかきまらない。前半53―27で終る。

後半七分から名電高はスタメンを全部休ませる余裕見せ楽勝。

（戦評　栗田―長野県）

二回戦
名電高 71 38-33 25-36 61 広島商業

すべり出し両チームともに決め手を欠きミスの多い攻防に終始した。広島商は走力を生かしたゲーム展開し、3点リードして前半を終る、後半15分過ぎ名電高はようやく長身選手を中心にたてなおし、リードを奪った。

（戦評　月刊バスケットボール10月号より）

三回戦
名電高 66 38-41 28-38 79 中大付属

前半スタート時は名電高一、三、一中大付三、二共にゾーンディフェンスを敷く名電高は高木を中心に加藤が特に外側からのシュートをきめるのが目立つ。10分には期待の新人加納を入れゴール下にボールを集める38―28中大付のリードで前半を折り返す、後半スタート直後大活躍の中大付新人後藤が五反則で退場。流れが急におかしくなる。このスキを名電高がとらえ九分には三ゴールとつめるがどうした事か調子にのったはずの名電高はこの一番大切な時にチグハグなシュートばかりして自滅した。

（戦評　小林―中京大学）

善戦す

フェンシング部

今年こそインタハイに於て学校対抗及び個人は優勝へと部員一同猛練習に拍車をかけてきたのですが、残念ながら……。

場所　長野県上伊那郡箕輪町、箕輪町民体育館
期日　八月一日～五日
選手　G3A成瀬博夫（守山西中）E3B乾秋雄（浄心中）E3B中村哲夫（愛・横須賀中）E3B武昌治（北陸中）M2B東伸行（天神山中）。

成績、学校対抗、第一回戦、秋田経済付高勝名電高五勝。第二回戦、岩国工業高零勝名電高五勝。第三回戦大垣南高零勝名電高五勝第四回戦法政大学第二高校五勝名電高四勝、この試合は優勝経験を豊富にもつ両校なる故、近代まれにみる熱戦で会場の観衆の声援を二分化した感があったが、本校の選手達は相手校の精神的気迫に敗れた感がある

個人戦　フルーレ、乾秋雄準優勝。中村哲夫、準々決勝で破れる。エペ　乾秋雄準々決勝で破れる。サーブル　森茂（日比津中）一回戦にて破れる。

本年10月下旬に開催される第31回国民体育大会（佐賀県）へ臨むため八月二十九日、岐阜県大垣市大垣南高校体育館に於て東海地区ブロック予選会が開催されました。

選手　G3A成瀬博夫、E3B、乾秋雄、武昌治、加藤正宏（愛・小原中）

成績。静岡県一勝愛知県八勝、三重県二勝、愛知県七勝、岐阜県四勝、愛知県五勝、この結果愛知県が東海地区の代表となりました。国民体育大会も優勝回数が多いのですが近年優勝に恵まれていない。まして今年のインタハイは優勝できる力がありながら惜敗したわけですので、この国体には必ず優勝をと選手一丸となって練習に練習を重ねて後悔のない結果を得たいと思っている。

中部大会を目指して

野球部

「ベスト8進出ならず」

七月二十一日からの第五八回愛知大会も二十八日対中京戦で敗れ去った。九回二点リードし一時は勝利を手中にしたかと思ったが、その裏四本の安打と重盗を生かされ、遂に逆転敗。全く残念な一戦だった。みんな悔のない善戦で流した涙も美しかった。けど帰路の車中は重ぐるしく昼食も口にせず合宿所にもどった。

結果報告

第一回戦　（於瑞穂球場）
名電10X～0東海工高
（六回コールドゲーム）
第二回戦　（於瑞穂球場）
名電8X～0名古屋工高
（七回コールド）
第三回戦　（於半田球場）
名電8X～0春日井高
（七回コールド）
第四回戦　（於豊橋球場）
中京8X～7名電

出場した三年生諸君、本当にご苦労さんでした。

倉野光生Ⓖ（名古屋若葉中）
杉浦克敏Ⓖ（刈谷依佐美中）
西原明弘Ⓖ（名古屋桜田中）
加島和義Ⓔ（稲沢明治中）
森下猛彦Ⓔ（豊橋羽田中）
新実　理Ⓔ（西尾平坂中）
思田卓三Ⓡ（名古屋茂瀬中）

「待望の新人戦はじまる」

名古屋地区予選決果

第一次リーグ戦
8/17　名電11X～0西陵商
（五回コールド）
8/18　名電11X～0星城高
（五回コールド）
8/19　名電3X～0昭和高
8/20　名電7X～0瑞陵高
（七回コールド）
8/21　名電13X～0愛知商
ゾーン優勝、第二次へ

第二次リーグ戦
8/29　名電11X～1星城高
（五回コールド）
8/31　名電8～0享栄高
（七回コールド）
9/1　名電9～1松蔭高
（七回コールド）

Aゾーン優勝、従って名古屋市内四校決勝トーナメントに進出、準決勝
9/5　名電3X～2中京

決勝は愛知高と決定せしも台風来襲により同校第一位で本年はあずかり。

新人戦メンバー
投手　鈴木伸良　G2
捕手　内藤真如　G2
一塁手　都築　智　G2
二塁手　渡辺健二　E2
三塁手　竹内富久　E2
遊撃手　本村琢也　G2
左翼手　手嶋　明　E2
中堅手　間瀬丈雄　G2
右翼手　山田英夫　M2
補欠　野村猪三美　E1
〃　魚住長政　M2
補欠　岩田勇一郎　M2
〃　木和村大五　E2
〃　山本平基　M2
補欠　小久保典好　G1
〃　石川和徳　G1
〃　水谷浩則　E1

九月十五日よりの県高校野球選手権大会には、順調に勝ち進み、決勝リーグ進出決定戦（Dブロック）で宿敵中京高を3X～2で破り、中部地区大会への出場を目指して頑張っている。

去年に続いて

硬式庭球部

去年に比べ戦力に不安を感じていたが、部員一同よく頑張り、日頃の地味な練習に耐え、その力を十分発揮し、伝統を守って我々が目標とする大会（東海総合体育大会、インターハイ、全日本ジュニア選手権大会）に出場ができたことを、まず一番の喜びとしております。しかし、全国レベルから見たとき、我々庭球部の微力を痛感せざるを得ませんでした。

今後一層の努力と精進により、庭球部発展の確固たる礎を築き、我々の青春を意義あらしめようと頑張っております。

東海総合出場選手
E3D赤坂龍次（城山中）
E3I依田和明（愛・古知野）
M3A吉田幸由（愛・稲沢中）
R3B河野昭彦（今池中）
E3I渡辺治彦（愛・半田中）
G3C川口寿明（愛・大里中）
G3B長谷川義記（愛・東部中）
R3A伊藤亮輔（笹島中）
F3G荒川文夫（瑞穂ケ丘中）

インターハイ出場選手
依田和明
吉田幸由

全日本ジュニア出場選手
依田和明

近藤君準決勝に

陸上競技部

昭和51年度全国総合体育大会陸上競技選手権大会は、8月2日～5日まで長野県長野市営陸上競技場で行なわれ、G3A近藤雅洋（愛・知多中）が400Mに又E3C東伸二君（愛・品野中）が円盤投げに出場。近藤君は予選で50秒13で2着に入り通過、準決勝では50秒37で惜しくも4着で決勝進出はならなかった。円盤投げの東君は41M82を投げ予選ラインの44M00を越せず失格した。

◎愛知県選手権（瑞穂）
400M1位近藤雅洋49秒5
800M3位　〃　1分59秒4
走巾跳6位渡辺一治（愛・平坂中）6M99
400Mハードル5位前刀信博（愛・犬山中）57秒5
砲丸投げ6位伊藤好郎（愛・三好中）

◎愛知県高校選手権（瑞穂）
400M1位近藤雅洋50秒3（大会タイ）
1500M2位寺田光宏（愛・高岡中）4分16秒2
1500M4位中野弘己（愛・豊川東中）4分21秒2
5000M4位野村忠利（愛・東浦中）16分43秒8
5000M6位杉山明浩（愛・上野中）17分07分07秒4
110Mハードル2位末吉春雄（愛・南山中）
100Mハードル5位前刀信博16秒6
走巾跳2位加藤文男（愛・旭中）6M53
三段跳4位渡辺一治14M07
三段跳5位春日井銀一郎（愛・一宮北中）13M82
砲丸投げ1位伊藤好郎14M02
砲丸投げ4位伊藤弘（白山中）12M19
円盤投げ2位東伸二42M36
円盤投げ3位北村勉（川名中）35M62
400Mリレー2位名電44秒5
1600Mリレー1位名電3分33秒0

◎市民スポーツ（瑞穂）
100M4位加藤文男11秒6
1500M3位中野弘己4分24秒8
走巾跳1位渡辺一治6M57
砲丸投げ1位伊藤好郎14M02
400Mリレー1位名電44秒6

◎私学祭（瑞穂）
100M4位加藤美広（愛・稲沢中）11秒4
400M1位前刀信博51秒3（大会タイ）
1500M4位杉山明浩4分25秒0
1500M5位久野稔夫（愛・横須賀中）4分28秒0
5000M4位寺田光宏16分51秒8
110Mハードル2位末吉春雄15秒6
110Mハードル5位大野健一（愛・稲沢中）16秒9
走高跳3位春日井銀一郎1M90
走巾跳1位渡辺一治6M68
棒高跳5位林秀樹（愛・東浦中）2M70
砲丸投げ1位伊藤好郎13M73
砲丸投げ5位伊藤弘12M05
槍投げ3位富士上誠（愛・横須賀中）46M80
円盤投げ2位東伸二40M00
円盤投げ4位北村勉34M94
400Mリレー4位名電46秒4
1600Mリレー2位名電3分40秒1

全日本予選に

ゴルフ部

去る七月二十六、二十七日の両日大津市にある。瀬田ゴルフコースで、全日本の予選を兼ねた、関西ジュニアゴルフ選手権が開催された。

一日一ラウンドで二日間のトータルスコアで争われ、本校からも中学生一名を含む、十一名が参加し、第一日目は、3年の馬渕・2年の大西・守田・一年は堀田と全日本予選通過ラインまで進んだ。

第二日目にコースに慣れていない為に、乱調となり惜しくも全日本の予選は通過出来なかった。

成績
普通科三年D組
馬渕　篤（愛・弥富中）トータル179
普通科二年F組
高橋政也（岐・陶都中）トータル187
大西和弘（愛・飛島中）トータル165
普通科二年D組
守田智昭（港北中）トータル171
電気科一年J組
堀田大介（愛・中部中）

また、八月三日には、名岐ゴルフ場で、中部ジュニア選手権が開かれ二年生の大西和弘が三位に入賞、一年生の堀田大介が第八位であった。

編集後記

○吹奏楽部員の訪中の思い出を特集した。何が語られているか、熟読してほしい。

○例年のことながら、運動クラブ員の活躍には敬意を表する。

残念なのは、掲載以外のクラブについて、そのレポートを予定し記事も用意していただいたのに、余儀なくカット。まことに申し訳ありません。

○就職決定の時、進学校に目標を定める時、三年生諸君の奮起を望む。

○本号について、生徒諸君の感想・意見を大いに寄せてもらいたい。

新聞部員募集中

○希望者は部顧問先生まで○

カラープリント
○免許証明用撮影
○2分間写真もどうぞ
純正仕上（40円）名電高生格安!!
カメラクレヂット　3回～20回払い
若水カメラ　名電高前　711―1869

キハラ製図器
三角スケール（竹・セル張り）
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気高等学校御指定
大附通商株式会社
TEL（231）1744・3354

辞書・参考書の専門店
電気学園指定書店　正友館書店
千種区鏡池通2―13　城山中学校南
TEL（751）2717